

コープ災害ボランティア ネットワークニュース

【第129号】2025年8月
東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL: 03-3383-7800

7月12日(土)、東京都生協連会館にて、コープ災害ボランティアネットワーク第23回総会を開催しました。当日は東京都生協連樽井美樹子専務理事のあいさつで開会し、小野明広代表幹事からの提案により、審議、採決が行われました。総会閉会後は学習交流会として、東京都立大学教授市古太郎さんの講義を受け、防災カフェで交流の場を持ちました。

全議案が可決、「3カ年計画」も確認され、2025年度の活動が始まりました。

議決権の行使ありがとうございました

■議決権行使結果

議長委任 110名 書面議決 49名 会場での挙手 15名 計174名

■採決結果

第1号議案「2024年度活動報告承認の件」 賛成174名、反対0により可決
第2号議案「2025年度活動方針承認の件」 賛成174名、反対0により可決
第3号議案「2024年度幹事選出の件」 6名の幹事が確認されました。



能登半島地震から1年半、この間にも各地でさまざまな災害が発生しており、今後も被災者に寄り添った息の長い支援が求められています。

2024年度のCO災

ボの基礎講座には、ご家族での受講が増え、防災への関心の高まりを感じます。地球温暖化によりこれまでに経験したことがない大規模な災害が起きており、東京都の東京防災アクションプランの見直しでは、在宅避難に沿って対策が進められています。まさに生協が培ってきた地域とのつながりや助け合いの精神は、災害時に大きな力を発揮すると思います。このような状況の中ではCO災ボの果たす役割は益々重要になります。2025年度の活動を進めるためにも、活発な意見ををお願いします。



議長の西裕子幹事

議案提案・審議



小野明広代表幹事から議案書に沿って、第1号から第3号議案が提案され審議しました。2024年度の活動報告と2025年度の活動計画、2025年度の幹事候補の紹介、2025年度から2027年度の3カ年計画について説明、提案しました。地域で活躍するボランティアの育成につながるために、CO災ボの活動を広く知らせ、2025年度も積極的に取り組んでいきます。

2025年度の幹事6名が選出されました

小野 明広さん (継続 パルシステム東京 職員)
小野 清 さん (継続 消費者住宅センター 職員)
鹿野 明美さん (継続 東都生協 組合員)
中村 佳子さん (継続 パルシステム東京 組合員)
西 裕子さん (継続 東都生協 組合員)
長谷川 裕さん (新任 生活クラブ生協・東京 職員)

総会終了後に開催した第1回幹事会で、幹事会細則第3条に則り、代表と副代表幹事を選出しました

代表幹事 小野 明広さん
副代表幹事 西 裕子さん

災害から命とくらしを守るための学習会

東京都立大学教授の市古太郎さんから、「東京特別区の震災リスクの変容と多様な主体による防災(事前復興)まちづくり」をテーマに学びました。

東京都が公表している直下型地震(マグニチュード7級)の被害想定について議論されていますが、120年前の関東大震災と30年前の阪神淡路大震災との比較を通じて、建物被害の特徴や火災リスクの変化、特に関東大震災時と比較して現在の東京の都市構造や建物の耐震性能の向上により、火災による被害リスクが大幅に低下していることを知りました。過去の震災の教訓を踏まえた都市計画や防災対策が重要です。

木造住宅密集地域いわゆる木密地域の防災対策については、地震火災対策として、安全な避難場所の整備や延焼遮断帯の設置、個々の建物の不燃化という3つの方法が挙げられ、これまでの対策についても説明されました。木密地域をどう減らすか、どうリスクを低減させるかについても言及され、全域延焼のリスクは下がったものの、一部の地域では依然として改善が必要です。



修復型のまちづくり計画論とは、「みち・ひろば・いえ」の3つの計画要素を少しずつ改善することです。自分たちのまちを自分たちで守ること、住民参加による取り組みの必要性が事例と共に紹介されましたが、このテーマへの参加者の関心の高さを感じました。

最後に普段から高齢者施設や保育所などと、クリスマス会などでの交流活動など、防災やまちづくりに商店街や福祉施設など様々な団体を巻き込むことの大切さを強く語られました。



みんなの防災カフェ@とれん

「防災カフェ」はどこでも何人でも話したい人が集まり、災害や防災について語り合う場です。今回はグループごとにお題を選び、防災食を試食しながら交流しました。今回は30分程度でしたが、長くても1時間以内で終わらせる気軽さが開催のコツです。

「在宅避難」のグループでは、携帯トイレや缶詰などの防災食、ラップやピーラーやポリ袋などの役立つ備品などの情報が、「防災食」のグループでは、防災食でなくても、普段使いの食品を多めに保存しておくことや、離乳食や甘いおやつ、ナッツやドライフルーツ、野菜ジュースなどのローリングストックについて情報が交換されました。また、行政からの防災用品の補助金制度や携帯トイレの配布などについても情報が提供され、活発な交流になりました。

お湯を入れるだけ、またはそのまま食べられる食品だけの手間がかからない試食を行い、ご飯は長期保存食品と思えない美味しさで、おかずの組み合わせもピッタリ！大好評でした。



- 熱湯を入れたらご飯になる、アルファ化米「白飯」「赤飯」は5年の長期保存。
- コープ商品「鶏そぼろ」「鮭フレーク」やピクルスは、手頃な価格で美味しい！賞味期限が1年程度あり、ローリングストックに最適です。



市古太郎さんの講義は興味深いテーマで、現状の報告や解説がとてもわかりやすく、「時間が短く感じた」「またお話を聴きたい」と、皆さんから次の講義への期待の声がありました。また、防災カフェについても、「短時間でも交流できてよかった」「みなさんの体験談がちょっとした知恵になりました」と好評でした。

総会当日の会場参加者は少なかったのですが、「参加できてよかった」「活動の広がり期待する」と感想をいただきました。また、174名の会員が議決権を行使されたこと、例年よりコメントが多く出され、長年の活動への労いや「これからも講座に参加します」とことばをいただいたことは、幹事会にとって大変うれしいことです。2025年度もよろしくお願いいたします。

報告

CO災ボスキルアップ講座 5月17日(土) 防災館「そなエリア東京」で学んで体験

「そなエリア東京」は江東区の東京臨海広域防災公園にあり、CO災ボ会員のスキルアップ講座として体験学習を実施し、16名が参加しました。

最初のプログラム「東京直下 72h TOUR」は、駅ビルのエレベーター内で震度7の地震に遭遇。地震発生から避難までをタブレット端末でクイズに答えながら、72時間生き抜く知恵を学ぶ体験学習ツアーです。

次に「災害と暮らしの学習コーナー」で、首都圏で想定される被害に対して、暮らしの中でできる備えの知恵を学びました。

その後は「津波避難体験コーナー」防災グッズや学習ツールの展示、首都直下型の地震が起きた場合に何が起こるかを伝える映像などを自由に見学しました。

体験学習終了後は、レクチャールームでふりかえりを行い、「気づいたこと」「実践できそうなこと」など、感じたことを共有しました。災害の悲惨な状況を疑似体験し、実際に逃げられるのか、どう動けばよいのか、自分で判断し行動することの大切さを考える機会となりました。



エレベーターが急停止。扉が開くと停電で暗闇です。



建物が崩壊した被災市街地の再現



多くの防災の知恵が展示されています



レクチャールームでふりかえり



事務局コラム by 奥山 佐和子

CO災ボ事務局の奥山です。2025年度から後任の吉村真由美と担当事務局を交代します。

6年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

東京都生協連の大規模災害対策や防災減災活動の一つとして、CO災ボの活動に事務局として取り組みましたが、CO災ボの活動はとてもユニークだと感じていました。生協の組合員や職員、地域の住民の方が連続講座を受け、会員となり、その後もスキルアップのための講座や情報提供を受けて学習すること。そして職員や組合員が幹事となり、幹事会が運営の主体となっていること。生協でしかない活動だと思います。

私は、1995年の阪神淡路大震災発災時は阪神間に住んでいましたが、被災したまちやその復興の様子、自分自身の経験や思いが、一年一年、時が経つうちに記憶から薄れてしまう一方でした。しかし、CO災ボの活動に携わったことが震災で起こったことへの理解につながり、命を守るために学ぶことがいかに大切かを認識できたと思います。いつ起こるかわからない災害に関心を持ち続けることは決して楽しいことではありませんが、一人でも多くの人に防災の意識を持っていただきたいですし、私自身もCO災ボの一会員としてこれからも学び続けたいと思います。

CO災ボの活動にこれからもご理解とご参加をよろしくお願いいたします。